

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月14日

株式会社SRAホールディングス
代表取締役社長 鹿島 亨



第2四半期決算概要

今後の取り組み

第2四半期決算概要

業績/前年同期比較

- 売上高: 増収
- 粗利益 : 増益
- 営業利益 : 増益
- 販管費: 減少
- 経常利益: 減益
- 四半期純利益: 減益

単位: 百万円

	2020年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績	差 異
売上高	20,402	19,959	+442 (+2.2%)
粗利益	4,483	4,294	+189 (+4.4%)
粗利益率	22.0%	21.5%	+0.5%
販管費	2,414	2,567	△152 (△5.9%)
販管费率	11.8%	12.9%	△1.1%
営業利益	2,069	1,727	+341(+19.8%)
営業利益率	10.1%	8.7%	+1.4%
経常利益	1,957	2,139	△181(△8.5%)
経常利益率	9.6%	10.7%	△1.1%
四半期純利益	△1,131	851	△1,982 (-)
1株当たり四半期純利益	△91.69円	69.09円	-

業績/2Q業績予想(2019年5月発表)比較

- 業績予想に対して
 売上高、営業利益：業績予想を上回る
 経常利益、四半期純利益：業績予想に届かず
- 第2四半期(累計)連結業績予想を修正 (2019年10月31日発表)
- 通期業績予想は変更せず

単位：百万円

	2020年3月期 第2四半期		
	実績	業績予想 (2019年5月発表)	差異
売上高	20,402	20,200	+202
営業利益	2,069	1,950	+119
経常利益	1,957	2,000	△42
四半期純利益	△1,131	1,070	△2,201
1株当たり四半期純利益	△91.69円	86.73円	—

売上高/セグメント別(前年同期比)

- **開発事業：4.9%減少** … サービス業が増加
一部の製造業、金融が減少
- **運用・構築事業：10.7%増加** … 企業向け、大学向けのいずれも増加
- **販売事業：10.2%増加** … 機器販売が増加(SRA、AIT、SRAOSS/Proxim)

単位：百万円

	2020年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績	差 異
開発事業	10,131	10,652	△520 (△4.9%)
運用・構築事業	2,608	2,356	+252(+10.7%)
販売事業	7,662	6,950	+711(+10.2%)
合 計	20,402	19,959	+442 (+2.2%)

売上高/顧客業種別（開発事業、運用・構築事業）

単位：百万円

	開発事業		運用・構築事業	
	2020年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績	2020年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績
製造業	4,409	4,697	618	506
通 信	268	404	303	330
電力・ガス	521	572	7	1
金 融	2,583	2,843	664	593
生損保	175	169	91	88
流 通	475	447	28	7
大学等	280	296	512	438
サービス	980	844	110	91
その他	434	376	270	297
合 計	10,131	10,652	2,608	2,356

販売事業：前年比 増加(+10.2%)

AIT 販売事業 売上高

単位：百万円

2020年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績	差 異
5,514	5,435	+79 (+1.5%)

◎ 高収益案件中心の受注活動の成果あり〔収益も過去最高〕

SRA 販売事業 売上高

単位：百万円

2020年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績	差 異
982	668	+313 (+46.8%)

◎ リプレイス等に伴う機器販売が増加

◆ **SRAOSS/Proxim**(2018年度3Qから業績取込)も増収要因

参考：グループ会社実績

		2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期
		第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期
SRA	売上高	9,469	20,055	9,544	19,936	9,438
	経常利益	1,566	2,878	2,190	3,725	1,692
AIT	売上高	6,657	11,093	6,356	12,036	6,416
	経常利益	592	1,028	713	1,276	759
ソフトウェア・サイエンス	売上高	1,313	2,537	1,249	2,528	1,352
	経常利益	161	331	136	334	154
SRA西日本	売上高	519	1,161	592	1,313	527
	経常利益	51	165	85	184	43
SRA東北	売上高	560	1,344	604	1,324	650
	経常利益	70	198	92	205	121
SRAアメリカ SRAヨーロッパ	売上高	675	1,403	766	1,584	683
	経常利益	90	194	63	143	82
SRA OSS	売上高	960	1,841	987	2,282	1,279
	経常利益	△232	△390	△596	△958	△321
その他の子会社	売上高	686	1,655	785	1,417	711
	経常利益	25	88	48	65	58
子会社合計 (SRAを除く)	売上高	11,373	21,038	11,343	22,484	11,623
	経常利益	759	1,614	543	1,249	899

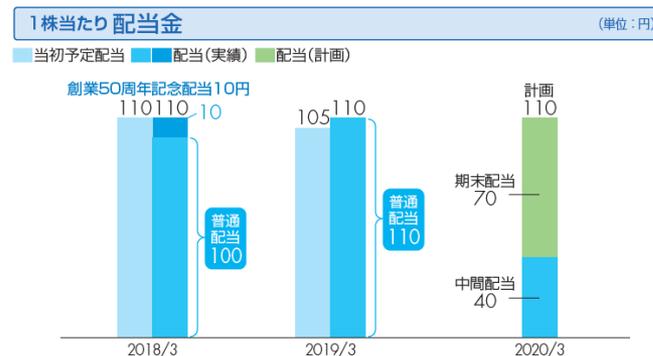
単位：百万円

太字：前年同期比で増

株主還元の充実

■1株当たり配当金

- ・2018年3月期:110円 対前年比 20円増配
(普通配当100円+創業50周年記念配当10円)
配当性向 65.4% 配当利回り:3.6%
- ・2019年3月期:110円
期末配当(普通配当):当初計画比5円増配
(普通配当110円)
配当性向 67.0% 配当利回り:4.5%
- ・2020年3月期:110円(計画)
中間配当金:40円(確定)+期末配当金:70円(計画)
配当性向 54.3%



■連結 ROE 10%以上を持続的に確保

- ・2019年3月期: 9.5%
- ・2020年3月期:11.4%(予想)



今後の取り組み

受注の確保／売上高の増

- ・案件を創出→確実に受注

既存顧客のシェア拡大、休眠顧客の洗い出し

- ・製品ソリューション提供→コンサルティング、開発に拡大

粗利益の確保／粗利益率の向上

2Q単独の粗利益率(実績)
23.1%↑UP

- ・徹底したリスク管理

納期厳守・高品質・生産効率向上(ツール活用)

- ・オフショア開発(中国/上海、セルビア等)の優先活用

- ・不採算／低採算プロジェクトの撲滅

◆ Madison Holdings Group

- ・投資の目的
 - ①純投資 成長が予想される仮想通貨取引市場におけるビジネス展開による成長性に期待
 - ②協業 (戦略投資) Madison社のブロックチェーン/FinTech(成長分野)の技術・ノウハウ、SRAの金融分野における実績を相互活用

- ・投資の現状
 - ◎米中摩擦、香港デモの影響が香港市場に波及
 - ◎Madison社の新規事業(ブロックチェーン)開始遅れによる業績への影響.....

↓

Madison社の株価下落
第2四半期に投資有価証券評価損 33億44百万円を計上

- ・今後の対応
 - 〈投資の目的〉の実現に向け、継続して
 - ①株価の上昇を見ながら、適切な時期に株式を売却
 - ②Madison社のブロックチェーンビジネス推進を技術支援
 - ・・・→ Madison社の業績向上

◆ Proxim

- ・2018年度2Qに子会社化し、効率化を推進
- ・Contract ManufacturerをKingnet(持分法適用会社)に移行中
- ・KingnetおよびSRAグループとのシナジー拡大を目指す



◆ Cavirin

- ・2019年7月から改革を実施。効率化を推進中



〈クラウドセキュリティの価値はますます向上している〉



- ・Cavirin製品およびそのノウハウを活用したビジネスを日本でも促進
- ・EXITの方針に変更なし

SRAが米国Solix Technologies Inc. 製品を日本で展開

株式会社SRAとSolix Technologies Inc.（本社：米国カリフォルニア州サンタクララ、CEO：Sai Gundavelli、以下Solix社）は、Solix社の提供する「Solix Common Data Platform(CDP)」を日本で販売することで合意しました。

あらゆる業界においてDXへの対応が求められるなか、SRAはデータドリブン経営を支援するソリューションとして、Solix社の「Solix Common Data Platform(CDP)」をお客様に提案・提供することになりました。「Solix Common Data Platform(CDP)」は、Enterprise Data Archiving とEnterprise Data Lakeを実現する先進的な製品であり、この導入によりデータドリブン経営が可能となります。

Solix社＝創業以来一貫してエンタープライズデータマネジメント分野におけるリーダーとして数々の革新的なソリューションを提供。Amazon Web Services、Microsoft Azureなどをクラウドパートナー、またOracle、SAPなどを技術パートナーとし、米国を中心に大企業、中堅企業をターゲットとしたビジネスを展開しており、数多くの導入実績を有する。

SRAは、日本における販売代理店として12月にSolix社と契約し、2020年1月からSRAをはじめとするSRAグループ各社により、『データドリブン経営を支援するソリューション』として提供を開始する計画である。

■製品概要

「Solix Common Data Platform(CDP)」のData Lakeは、構造化データと非構造化データを保存できる統一されたりポジトリを提供します。データをそのままの形で保存できるため、より汎用的なデータを分析・活用できます。

さらに、Data ArchivingではアーカイブされたOracle EBS、SAP、Siebelなどの基幹システムのデータや帳票をそのままの形で参照することが可能です。

これらの機能により、以下の様な活用も期待できます。

- ・基幹システムのデータ量増加によるパフォーマンス低下への対策
- ・基幹システムをクラウド移行する際の履歴データの保存環境
- ・システム移行に伴うテストデータ生成

2020年3月期 計画

単位:百万円

	2020年3月期 計画
売上高	41,700
粗利益	9,350
粗利益率	22.4%
販売管理費	4,850
販管費率	11.6%
営業利益	4,500
営業利益率	10.8%
経常利益	4,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,500
1株当たり当期純利益	202.65円
1株当たり配当金	110円

「技術のSRA」として
次の50年を創る

＜将来見通し等に関する注意事項＞

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提としており、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。